

1996年出土の木簡



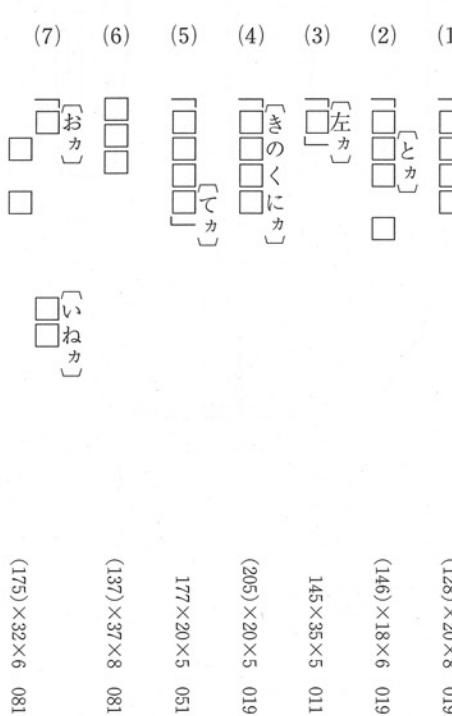
その結果、一二世紀の四世紀の掘立柱建物、溝、

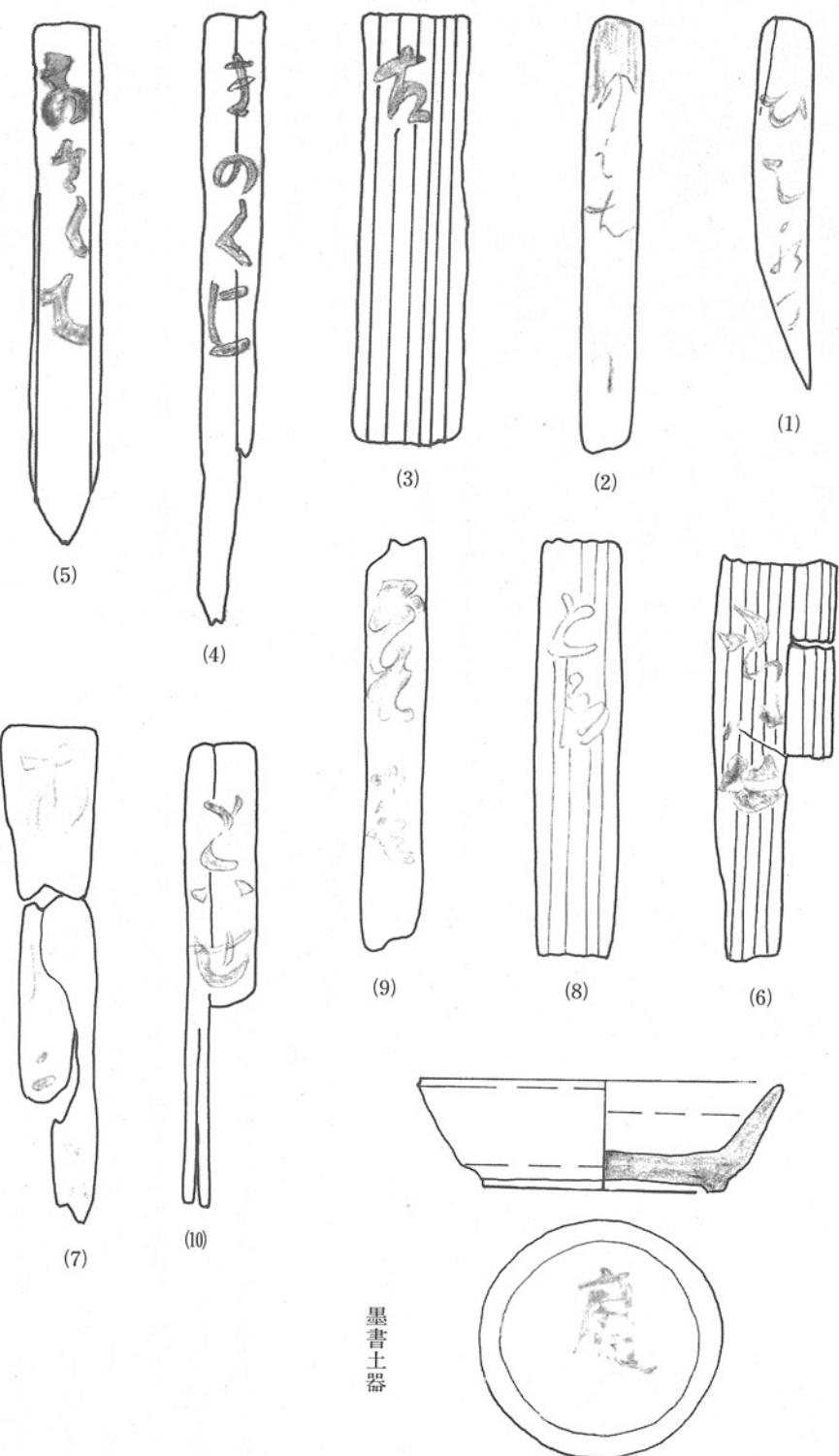
- |               |                     |
|---------------|---------------------|
| 所在地           | 高知県須崎市吾井ノ郷為貞        |
| 調査期間          | 一九九六年（平8）九月～一九九七年二月 |
| 発掘機関          | （財）高知県埋蔵文化財センター     |
| 調査担当者         | 小嶋博満                |
| 遺跡の種類         | 集落跡                 |
| 遺跡の年代         | 弥生時代、中世             |
| 遺跡及び木簡出土遺構の概要 |                     |

遺跡及び木簡出土遺構の概要

8 木簡の釈文・内容

土坑、集石遺跡、石垣、基壇状建物とみられるものなどを検出し集落跡と確認した。木簡が出土したのは、調査区南側で、集落跡から南東に十数m離れた地点である。遺物は弥生時代から近代までを含み、特に多数出土したのは、瓦器、青磁などである。木簡は、遺構に伴うものではなく、近世の遺物を数点含む耕作土（II層）の下、青灰色粘質土砂層（III層）から一〇点出土した。そのほか、集落跡付近の包含層から九世紀前半と思われる墨書き土器（須恵器）が出土〔道ガ〕





1996年出土の木簡



(1)

(2)

(4)



(10)



(9)



(8)



(7)



(5)



(3)

140×30×5 011  
(140)×23×4 019  
(155)×25×5 019

(8) 「上米カ」  
〔□□〕  
(9) 「おそ」  
〔□□〕  
〔十七カ〕  
(10) 「といせか」  
〔□□□〕

(1) は切り込みがなく、下端は折損。(2) は文字がはつきりしない。  
裏面に一本の切り傷がある。(3) は短冊型。文字は明瞭。(4) は下端折  
損。(5) は長方形の材の下端をとがらせたもの。文字ははつきりしな  
い。(8) は短冊型。表裏木目の線が走る。

(小嶋博満)